

独立行政法人地域医療機能推進機構

JCHO 登別病院通信

Japan
Community
Health care
Organization

発行日 2019年1月

NO.6



今月の表紙 撮影者 高野 秀樹

今月号の内容

- JCHO学会に参加して ● 訪問リハビリテーションをはじめてみませんか！
- 平成30年度第2回感染対策講習会 ● 院内褥瘡対策委員会主催院内研修会を終えて
- 新病院建設における進捗状況について ● 2018クリスマス・キャロリング
- 皆さん、こんにちは！ 保育室の扉を開けると？ ● JCHO登別病院のご案内 ● 編集後記



JCHO 学会に参加して

1-2 看護師長 坂本 親子 看護師 神山 幸子

平成30年11月16日、17日、第4回JCHO地域医療総合医学会に参加させていただきました。今回1-2病棟からは、ポスター発表を行いました。16日は会場の下見や、他施設の発表の様子を見学しましたが、思ったより時間の余裕がなくあっという間に特別講演となり、会場は大盛況。こんなにたくさんのJCHO職員がきているんだと驚き（学会参加は実は初めて）、大きな組織だったんだと今さらながら感心してしまいました。

特別講演は女優の壇ふみさんを迎え「仕事が教えてくれたこと」という演題ではじまりました。生い立ちや学生時代のこと等を話されていましたが、両親を看取られたお話は大変興味深く聞くことができました。父親のときは悔いが残り、母親のときは悔いがないようお世話しようと思ったそうです。そのためには、医療者との信頼関係が非常に大事で何かひとつ決断するときも医療者の言葉を信じ行動することができたと話されていました。コミュニケーションを十分とり、患者さんの意向に沿った医療の提供。当たり前のことですが、胸にずっしりとくる内容でした。

1-2病棟の発表は11月17日のポスター発表です。会場が離れていたため、当日聞き

に来る人はどのくらいいるのか、質問はどんな内容だろうかと心配は尽きることがありません。発表者の神山さんは入念に練習を行い本番に臨みました。発表は大変わかりやすく、今1-2病棟で取り組んでいる退院支援の課題について伝えることができたと思います。会場から質問もあり丁寧に答えられていました（神山さんはもっとわかりやすく答えることができたと悔しがっていましたが・・・）。スクリーニングシートも大変興味をもってもらうことができました。

今回の発表には、病棟スタッフはもちろん院長、総看護師長、師長の皆さんに助言、協力いただきました。ありがとうございました。この成果は1-2病棟の看護ケアに活かしていきたいと思います。



訪問リハビリテーションをはじめませんか！

リハビリテーション室 作業療法士 森 勇 希

訪問リハビリテーションとは、リハビリの専門家が直接ご自宅へ訪問し心身の状態や住宅環境の評価を行い、安心・安全にその人らしい生活を送れるよう支援するサービスです。

病院を退院したばかりで、自宅生活でお困りの場合に効果的です。例えばトイレや入浴に手伝いが必要である。2階に上がれない。散歩に行きたいが疲労や転倒の心配があるなどで理学療法士・作業療法士の専門的なリハビリ（ストレッチ、各種動作練習、バランス練習、住宅環境調整のアドバイス、福祉用具選定、介護方法の指導など）がマンツーマンで受けることができます。

また、冬期は自宅にこもりがちで運動不足が心配な方、他者交流や集団場面が苦手な外部へ通うことが不安であるという方にもおすすめです。まずは自宅で行える訪問リハビリで心身の準備を整えて、関連職種と協力し合いデイサービスやデイケアの利用へとつなげられるよう援助させていただきます。

対象圏域は室蘭市、白老町の一部地域およ

び登別市全域となっています。在籍スタッフは理学療法士2名（女性1、男性1）、作業療法士1名（男性1）の3名体制で行っています。お住いの地域やスケジュール空き状況によっては予約待機となる場合があります。

利用料金については、2506円～2718円（自己負担1割、月4回、40分を標準とした場合。介護報酬改定に伴う料金変更あり）です。要介護度やかかりつけ医が他医療機関かどうかによって料金が異なります。

ご利用を検討したい方は介護保険証の有無を確認し担当ケアマネジャー、かかりつけ医に相談すると訪問リハビリ事業所へ紹介を行ってくださると思います。また、当事業所でもご本人、ご家族様からのお問い合わせを受け付けておりますのでご不明な点がございましたらぜひお問い合わせください。

訪問リハビリに関する詳しいご案内につきましては、パンフレットを作成し外来待合室に設置いたしましたので一読していただくと幸いです。どうぞ宜しくお願いいたします。



平成30年度第2回感染対策講習会

臨床検査室 中居千明

当院会議室において今年度2回目の感染対策講習会が平成30年11月5日とDVDでの講習が11月13日、11月21日と全3回開催されました。特に11月5日の講習会は外部講師として札幌北辰病院の宮崎佳奈子感染管理認定看護師に「インフルエンザ対策について」と題してご講演をいただき、また当院の職員も多数参加しました。

当院は第1回感染対策講習会での発表があったように今年の初めにアウトブレイクが発生したことは皆様の記憶に新しいかと思われませんが、そのことも踏まえて感染管理認定看護師によるアウトブレイクの防止策及び札幌北辰病院での事例も含めてのお話は、今後の当院のインフルエンザに対する対応策や職員の心構えとしても大変参考になる講演内容だったと思います。

特にアウトブレイクを未然に防ぐ為にイン

フルエンザ発症者をいかに早く見つけるかという問題について、感染対策の観点からみてインフルエンザを発症した人が発症者ということではなく、インフルエンザが疑わしいという人は全て発症者として扱うという考え方はアウトブレイクの防止策として理に適っており、個人的には改めてマスクの着用や手指衛生などの飛沫感染予防策の重要性を再確認しました。

また業務中にみかけた患者様が咳をしていたらマスクの着用を促し、近くの看護師に症状を報告するなどの具体例での初期対策のお話は、当院で働くどの職員でもそのような場面に遭遇することが考えられ、またどんな職種でも対応できる行動であるため普段から患者様の言動などに注意し、インフルエンザが疑わしいと考えた時点での初期対応を全職員が早期に行うことが望めます。

さらに職員からのインフルエンザの感染防止の観点から、当院の職員としてまずは健康の自己管理をして、標準予防策から取り組むことがアウトブレイクの防止に繋がると再認識できた講演でした。



院内褥瘡対策委員会主催院内研修会を終えて…

院内褥瘡対策委員会 副委員長 小林 美喜枝

院内褥瘡対策委員会では、毎年院外講師へ依頼し研修会を開催しています。平成30年度は、「褥瘡予防」と「院内で使用している薬品の適正な使用方法について」科研製薬株式会社 平井慎吾 先生をお招きし行いました。各部署より32名の参加がありました。

- 講義内容は、
1. 褥瘡予防の体位（車椅子・ベッド）
 2. 栄養管理の重要性
 3. リハビリを行い廃用予防
 4. 他病院での褥瘡症例の動画
 5. フィブラストスプレーの使用方法について

研修後は、褥瘡発生原因について講義内容以外での質問がありました。その中でフットケアについてのお話があり、私達もスキンケアに重点をおいてケアを行っていますが、スキンケアの大切さを更に学びました。最後は院内褥瘡委員会委員長、伊藤院長より講評があり、終了しました。

褥瘡委員会では、褥瘡発生について各病棟で誘因を分析し情報共有しています。また、週一回褥瘡回診を行い、治癒に向け検討しています。医師・看護師・薬剤師・栄養士やリハビリ担当者 と協力し、チームで患者さんに関わっていきたいと考えています。

今後も危険因子をアセスメントし、褥瘡予防に努めていきたいと思えます。

<豆知識>

～これからは、肌が乾燥する季節です。予防的スキンケアの方法について～

1. ドライスキンな場合は洗浄時 こすらずよく泡立てて優しく洗いましょう
2. ナイロンタオルなどでのゴシゴシ洗いは避け、泡で洗いましょう
泡の効果：皮脂膜の取り過ぎを防ぎ角質層を守る
3. 清潔な手に保湿剤をとり、一か所ではなく皮膚の複数の箇所 に点在させてつけましょう
4. 指先ではなく手のひら全体を使って、優しく丁寧に広範囲にのばしましょう
5. 皮膚がしっとりする程度の量を使用しましょう

以上、皮膚の洗浄・清潔、保温・保護、皮膚の損傷を防ぐことが大切です。



新病院建設における進捗状況について

事務長補佐（総務企画） 平 間 國 男

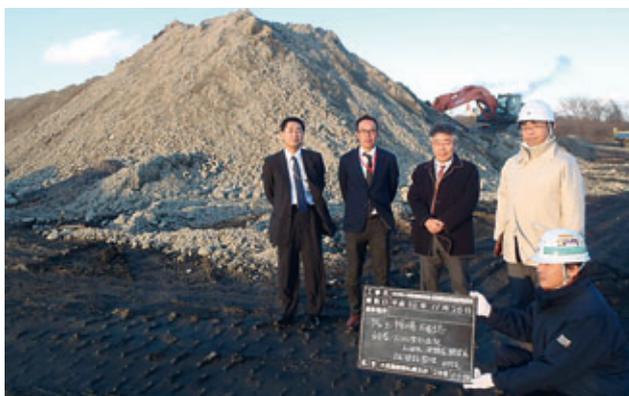
平成30年12月4日現在の新病院建設における進捗状況を報告します。

以前の代表者会議を平成30年10月より総合定例会議と名称を変更して月1回開催しています。また、建築現場事務所にて月に1回、該当者のみですが現場定例会議を開催しています。両会議共に工程表の説明と、出てきた議題などについて検討しています。

平成30年11月28日には残土捨場の確認のため、大成建設さんと共に白老まで行ってきました。また、建設現場を見ると大きなクレーンが可動しており、作業員の方も多い印象があります。

現状、予定通りに工事が進んでおり、年内には1F部分の基礎工事が終了となります。これから寒くなっていきますが工事は続けられ、徐々に新病院の輪郭が見えてくると思います。

職員のみなさんも新病院の完成を楽しみにしながら、通常の診療業務、移転に係る業務、電子カルテに関する業務など盛り沢山ではありますが頑張っていきたいと思います。



2018 クリスマス・キャロリング

理学療法士 高 野 秀 樹

12月21日、当院デイルームにて、夕方4時より、毎年恒例のクリスマス・キャロリングが開催されました。この催しは、登別中央福音協会に通われている方々のご好意により、クリスマスにちなんだ聖歌を合唱頂くもので、厳かな雰囲気にととのいたることの出来るひと時です。

照明が落とされ、合唱を披露される方々が登場して来ると、この時期ならではの澄んだ空気感と厳かな衣装、そして手にもつキャンドルの灯りで、クリスマスらしい雰囲気へと変わります。合唱が始まると、その場は神聖な雰囲気へとととのいたる、鑑賞された患者さまは、目をつぶってうっとり聞き入ったり、一緒に合唱したりしていました。街のクリスマスの雰囲気に触れる機会が少ない入院中の患者さまには、大変素敵なイベントでした。



皆さん、こんにちは！ 保育室の扉を開けると？

保育士 伊東 知恵子

「お早ようございまーす」の挨拶から始まり、「行ってらっしゃーい！ また、あとでネ！ お弁当ありがとう！」と、ハイタッチや、手を振る、かわいい子供たちの姿。朝の風景です。

そして、30分後には、足の踏み場が、なくなります。

思いきり散らかしますが、一生懸命、みんなで力を合わせて、お片付けを頑張ります。勿論、いっぱい、ほめてあげます。

日々、一緒に過ごす中、子供との信頼関係を築ける事は何より大切ですが、それと同じ位大切に思うことは、結果より、自分で頑張ろうとする意欲を育ててあげる事や、頑張っている成長を他の子と比べるのではなく、その子の少し前の姿と比べる事だと思のです。

そして、いつも笑顔と笑い声がいっぱいの環境の中で（これはOK！）、子供達と関わって過ごしたいと思います。

また、園庭がないのなら、山に囲まれた大自然が遊び場です。

いっぱいお日様を浴び、おいしい空気をもらってのお散歩に、解放感で目を輝かせる子供達です。事象の変化を肌で感じながら、色々な植物（木の実）や昆虫と出会い、触れ

る中で、驚きや不思議など、この時期だからこそ沢山体験させ、また、体力も培われます。

父母とは、おうちや、ここでの一日の様子を、おたより帳で交換しています。多分、成長の記録として残して頂けるのでは、と思っています。

何より、いちばんのイベント（行事）は、3月末の手作りお別れ会です。子供達と一緒に、包丁やまな板を使い、材料を準備します。小さな子は手での参加。そして個性いっぱいの食材が並びます。たこ焼き・焼きそば・手巻き・サンドイッチなど、みんなでメニューを考え、手作りします。

ここは、29年前、研修生の宿泊部屋であったものを、1月4日の立ち上げに向け、お正月返上で片付けや準備作業をおこない、2名の子供とゼロからのスタートでした。そして、立ち上げからの30年間は、あっと云う間でした。沢山の子供達との出会い、成長、父母の方々と共に共有させて頂いた思い出が、ぎっしり詰まった、キラキラの宝箱です。

これからも、職場のスローガン“チームワークと思いやり”（これもOK！）を忘れず、保育士と子供達とで、家族の様な距離で、毎日を豊かに過ごしたいと思います。



JCHO 登別病院のご案内

●外来診療体制

		月	火	水	木	金
整形外科	午前	オザワケイイチ 小澤慶一 ススキ ヨウスケ 薄 陽祐	オザワケイイチ 小澤慶一 ススキ ヨウスケ 杉 修造	スギ シュウゾウ 杉 修造 ススキ ヨウスケ 薄 陽祐 オカグチ メイ 岡口芽衣	オザワケイイチ (予約) 小澤慶一 (10時迄) オカグチ メイ 岡口芽衣	スギ シュウゾウ 杉 修造 ススキ ヨウスケ 薄 陽祐 オカグチ メイ 岡口芽衣
	午後			出張医 (予約制)		
外科	午前					
	午後					
内科	午前	ツカハラダイスケ 塚原大輔	ツカハラダイスケ 塚原大輔	ツカハラダイスケ 塚原大輔	ツカハラダイスケ 塚原大輔	ヨコヤマトヨハル 横山豊治
	午後					
神経内科	午前	出張医(予約制)			出張医(予約制)	
	午後	//			//	
ペイン クリニック	午前		カマ タノリ コ 鎌田 紀子 (第2・第4)			
泌尿器科	午前				出張医(予約制)	
婦人科健診					最終木曜日のみ	

※診療体制が変更となる場合があります。その際は院内告知やホームページ上でお知らせします。

●外来診療受付・診療開始時間

	診療受付時間	備考
午前	8時30分～11時30分	9時から(神経内科は9時30分)から診療開始です

※時間外の場合は事前にご連絡をお願いします。

※整形外科は24時間365日の診療体制をとっておりますが、土日夜間等は内科系医師が初期対応する場合があります。

編集後記

皆様からのご協力をいただき第6号の広報誌を無事に発行することができました。ご協力頂いた皆様に深く感謝いたします。新しい年を迎え、更に充実した広報誌にしていきたいと思っておりますので、今後とも広報委員会をよろしくお願いいたします。



<各交通機関>

- JR登別駅下車(特急列車停車) 登別温泉行きバス(病院前下車徒歩2分)
- 札幌-登別温泉高速バス(病院前下車徒歩2分)
- 道央自動車道: 登別東インターより7分



独立行政法人地域医療機能推進機構登別病院

〒059-0598 登別市登別温泉町133番地

TEL(0143)84-2165 FAX(0143)84-3206

<http://nobaribetsu.jcho.go.jp>

main@nobaribetsu.jcho.go.jp

出版責任者 院長 伊藤 美夫
編集長 事務長 山田 俊幸